

## 【ESD学習支援活動】

### 奈良市立六条小学校 野外活動 支援報告書

英語教育専修 学部1回生 後藤旭

1. 実施日 平成30年7月12日(木)～13日(金) ※支援は7月12日(木)のみ
2. 場所 奈良県生駒山麓公園内野外活動センター(奈良県生駒市俵口町2088番地)
3. 参加者 後藤旭・坂本和音(学部生)・谷垣徹(大学院生)・谷内裕也(教職大学院生)
4. 活動支援内容

平成30年7月12日、奈良県生駒山麓公園内野外活動センターにて奈良市立六条小学校の野外活動が行われた。野外活動のプログラムの一つであるキャンプファイヤーの支援に本学学生が関わった。

今回の野外活動支援で、私は3つのことを学んだ。一つ目は先生とのコミュニケーションの大切さ、二つ目は臨機応変に動くことの必要性、そして三つ目は児童の動きに気を配る大変さである。

まず先生とのコミュニケーションの大切さについてだ。私はギターを先生と一緒に弾く役割だった。そのため、どのタイミングでギターを弾き始めるのか、どのように進行するのか、などを本番前に細かく決めて共有しておく必要があった。今回は打ち合わせの段階でギターを持ち、音を鳴らしながら進行を確認した。確認し合うと、お互いが考えていることに相違が見つかったが、しっかりとその相違を話し合いながら訂正することができたので、本番は成功した。コミュニケーションをとることの大切さを大いに感じた。

次に臨機応変に動くことの必要性についてである。今回のキャンプファイヤーの会場は、参加した学生全員が初めて訪れる場所だった。そのため、いつもの会場とは様々な面で異なっていた。例えば、キャンプファイヤーの木の組み方である。今回は木を組むファイヤー台がなく、鉄製の大きな器の中に木を組んだ。その器は長年使われてきたようで、かなり変形していた。その器の変形に合わせて木を組まなければならなかったため、いつもの木の組み方とは異なる方法を用いて完成させた。私は臨機応変に動くことの必要性を感じた。これはキャンプファイヤーだけでなく、様々なことに共通して言えることだと感じた。



ゲームを楽しむ児童たち

最後は児童の動きに気を配る大変さについてである。ゲームなどをしていると児童たちは無我夢中に走り回る。中には柵を越えようとする児童もいた。人数の多い学校ほど、暗い中、児童全員に気を配るのは難しい。児童が火に近づかないようにする配慮はもちろん必要だが、児童の体調や動きにも気を配らなければならないことがわかった。

今回の野外活動支援は、会場が初めて訪れる場所だったことや人数が多かったこともあり、配慮と工夫が大きく必要とされた。そのことから、どんなときでも落ち着いて、場所や状況に合わせて行動できる力を養っていかなければならないと感じた。この意識を今後の活動にもつなげたい。